



2018年度事業報告会

2019年5月20日

1. 企業概要
2. 2019年3月期 決算概要
3. 前中期経営計画(2016-2018)
4. 新中期経営計画(2019-2021)
5. 参考資料

1. 企業概要

[組織体制]

(株)ニチレイロジグループ本社（持株会社）

2019年4月1日現在

地域保管事業

(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道

(株)ニチレイ・ロジスティクス東北

(株)ニチレイ・ロジスティクス関東

(株)キョクレイ

(株)ニチレイ・ロジスティクス東海

(株)ニチレイ・ロジスティクス関西

(株)ニチレイ・ロジスティクス中四国

(株)ニチレイ・ロジスティクス九州

エンジニアリング事業

(株)ニチレイ・ロジスティクス

エンジニアリング

物流ネットワーク事業

(3PL・運送・流通・加工)

(株)ロジスティクス・ネットワーク

(株)NKトランス



子会社31社 関連会社8社

マレーシア事業（関連会社）

NL Cold Chain

Network(M)SDN BHD

海外事業

欧州事業

Nichirei Holding Holland B.V.

HIWA Rotterdam Port Cold Stores B.V.

Eurofrigo B.V.

Thermotrafic Holland B.V.

Thermotrafic UK Ltd.

Thermotrafic GmbH

Frigo Logistics Sp.z o.o.

Transports Godfroy S.A.S

Entrepots Godfroy S.A.S

中国事業

上海鮮冷儲運有限公司

江蘇鮮華物流有限公司

タイ事業（関連会社）

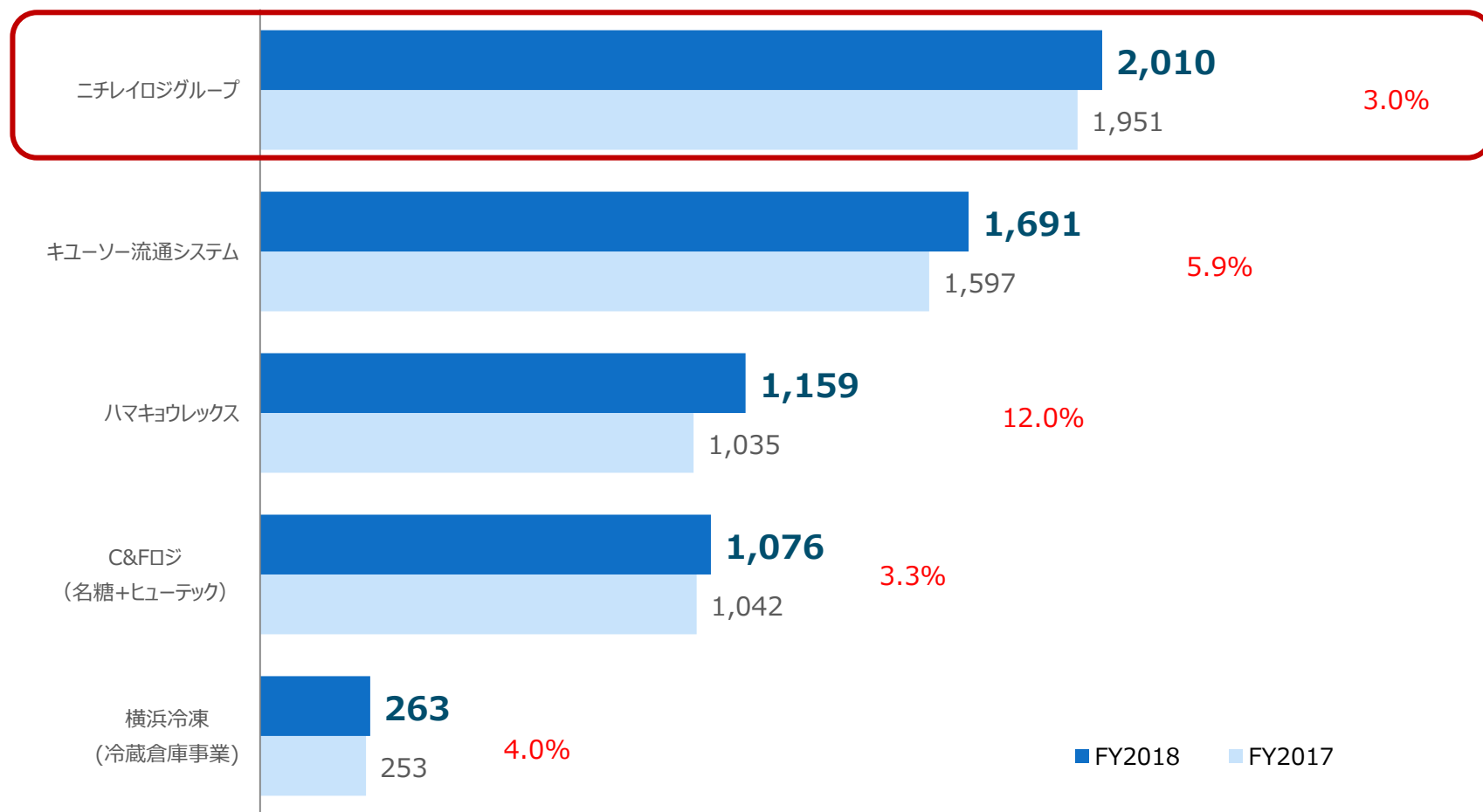
SCG Nichirei Logistics Co.,Ltd.

1. 企業概要

[ポジション①]

単位：億円

主要低温物流企業の売上高



※低温物流を主とする物流会社を選定
※各社決算短信（2019年5月20日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。

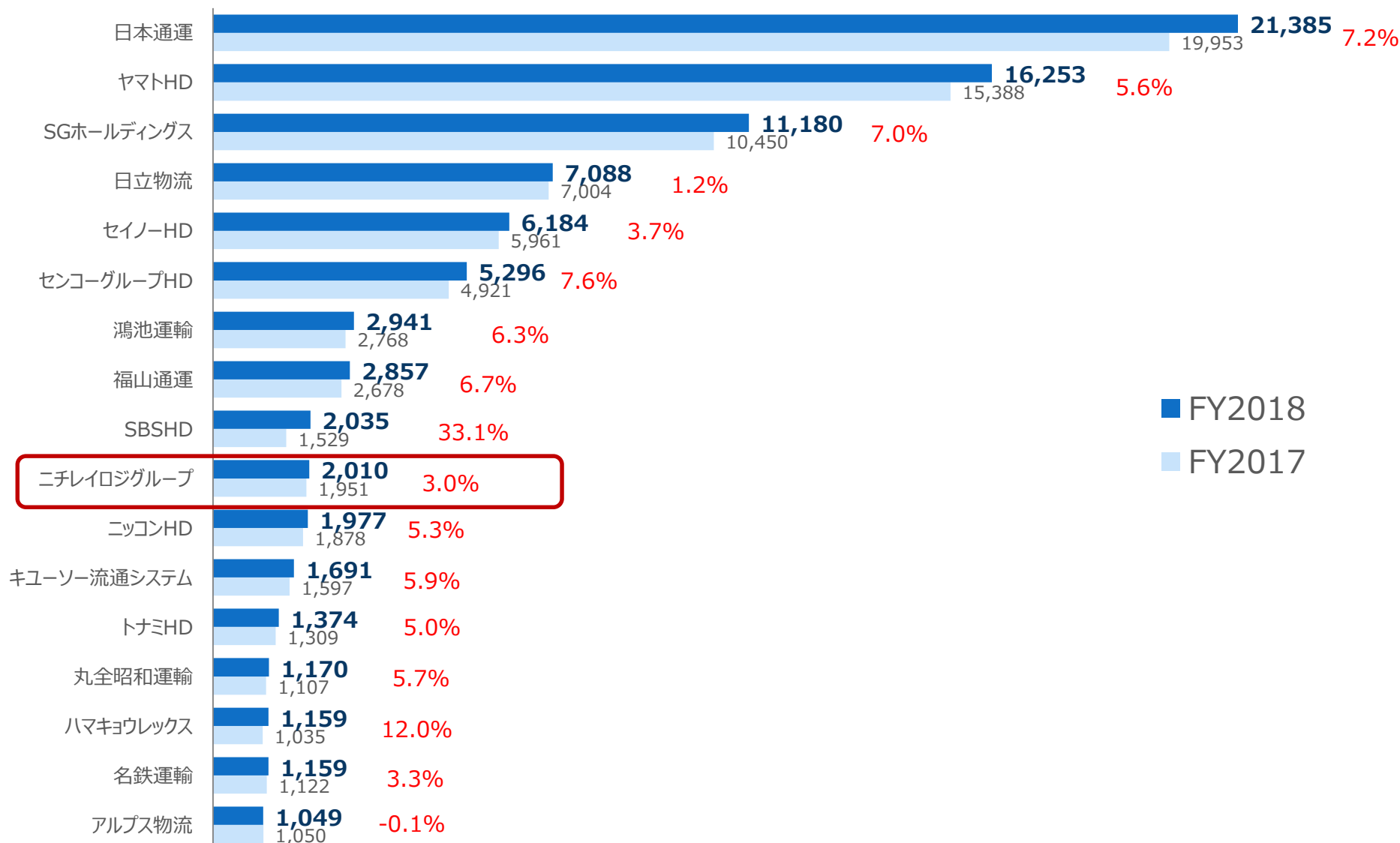
1. 企業概要

主要物流企業（陸運）の売上高



[ポジション②]

単位：億円



※トラックによる輸送を主とする物流会社を選定

※各社決算短信（2019年5月20日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。

1. 企業概要

[ポジション③]

冷蔵倉庫設備能力国内ランキング(推計)

順位	会社名	設備能力(ト)	全国シェア
1	ニチレイロジグループ	1,510,280	10.0%
2	横浜冷凍(株)	858,614	5.7%
3	(株)マルハニチロ物流	655,099	4.3%
4	東洋水産(株)	492,142	3.3%
5	(株)C&Fディホールディングス	476,125	3.2%
6	日水物流(株)	418,842	2.8%
7	(株)松岡	308,225	2.0%
8	(株)キューソー流通システム	259,475	1.7%
9	鴻池運輸(株)	249,355	1.7%
10	五十嵐冷蔵(株)	235,510	1.6%
11	(株)二葉	234,087	1.6%
12	日本物流センター(株)	172,110	1.1%
13	(株)兵食	163,586	1.1%
14	(株)ハウスイ	161,392	1.1%
15	第一倉庫冷蔵(株)	158,424	1.1%
16	藤林グループ	156,444	1.0%
17	(株)ランテック	136,774	0.9%
18	寶船冷蔵(株)	125,199	0.8%
19	山手冷蔵(株)	113,010	0.8%
20	(株)上組	107,684	0.7%

冷蔵倉庫設備能力世界ランキング

順位	Company	Locations	Capacity(m3)
1	Americold Logistics	United States, etc	27,755,394
2	Lineage Logistics	United States, etc	27,323,805
3	United States Cold Storage	United States, etc	8,834,460
4	AGRO Merchants Group	United States, etc	7,241,795
5	Nichirei Logistics Group, Inc.	Japan, etc	5,122,122
6	Kloosterboer	Netherlands, etc	4,847,354
7	NewCold Advanced Cold Logistics	Netherlands, etc	4,799,837
8	VersaCold Logistics Services	Canada	3,752,280
9	Cloverleaf Cold Storage Co.	United States	3,650,614
10	Emergent Cold Storage	Australia, etc	3,439,660
11	VX Cold Chain Logistics	China	2,924,345
12	Interstate Warehousing, Inc.	United States	2,838,126
13	Frialsa Frigorificos S.A. De C.V.	Mexico	2,831,610
14	Burris Logistics	United States	2,035,362
15	Henningsen Cold Storage	United States	1,828,070
16	Congebec Logistics, Inc.	Canada	1,635,068
17	Conestoga Cold Storage	Canada	1,503,356
18	Hanson Logistics	United States	1,240,803
19	Oxford Logistics Group	Australia	1,088,271
20	Stockhabo	Belgium	1,084,901

1. 企業概要

2. 2019年3月期 決算概要

3. 前中期経営計画(2016-2018)

4. 新中期経営計画(2019-2021)

5. 参考資料

2. 2019年3月期 決算概要

[ハイライト]

連結	分社化以降の最高益更新		
	売上高	: 2,010億円	前年比 3%増
物流 ネットワーク 事業	営業利益	: 114億円	前年比 1%増
	TC事業の伸長と輸配送収益性向上		
地域保管 事業	売上高	: 937億円	前年比 4%増
	営業利益	: 39億円	前年比 7%増
海外 事業	災害対応の一時費用とコストアップ ^o 影響		
	売上高	: 655億円	前年比 3%増
	営業利益	: 64億円	前年比 4%減
	欧州取扱い貨物の多様化と集荷拡大		
	売上高	: 383億円	前年比 8%増
	営業利益	: 12億円	前年比 21%増

2. 2019年3月期 決算概要

[連結業績]

売上高推移

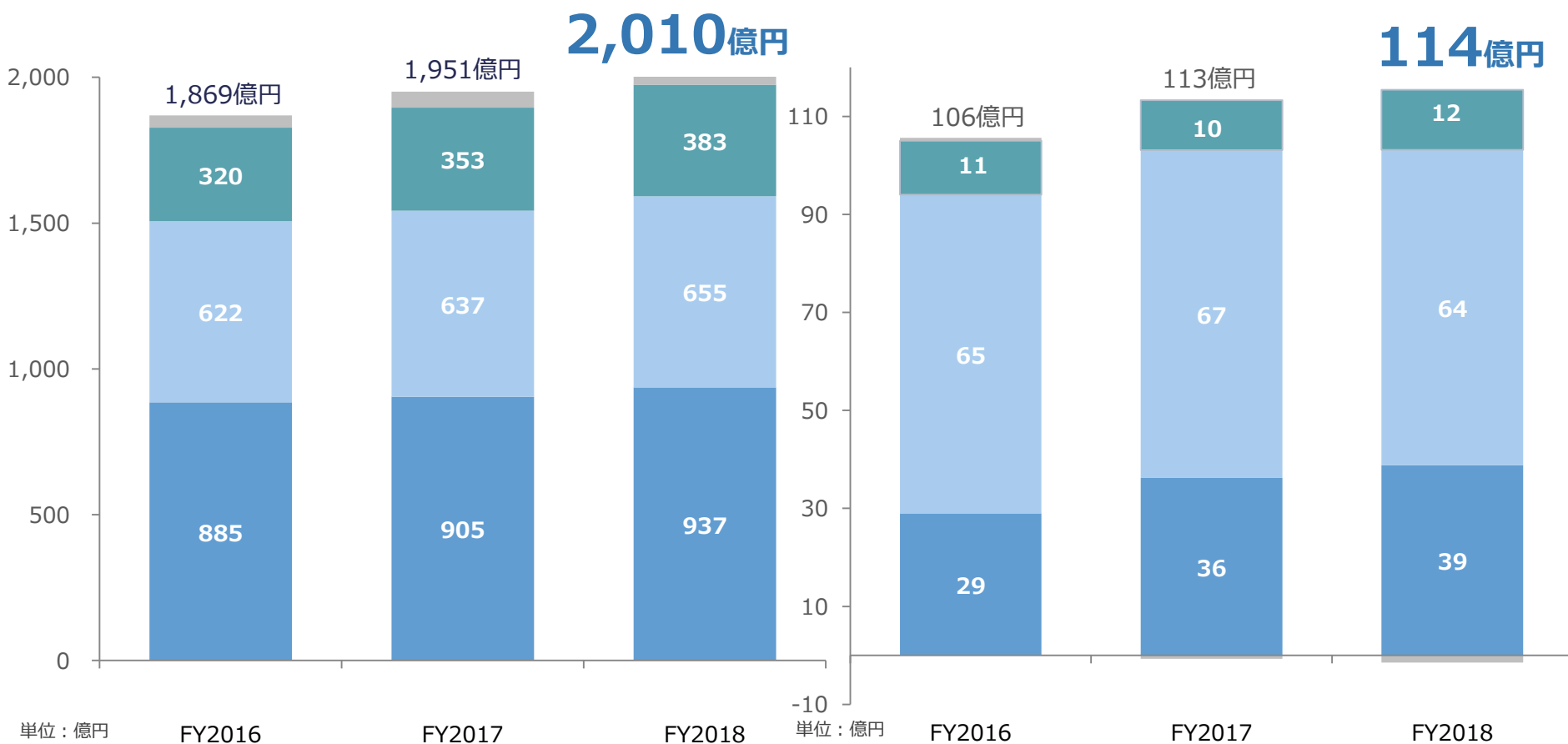
営業利益推移

- その他・共通
- 海外
- 地域保管
- 物流ネットワーク

前年比**3%増**

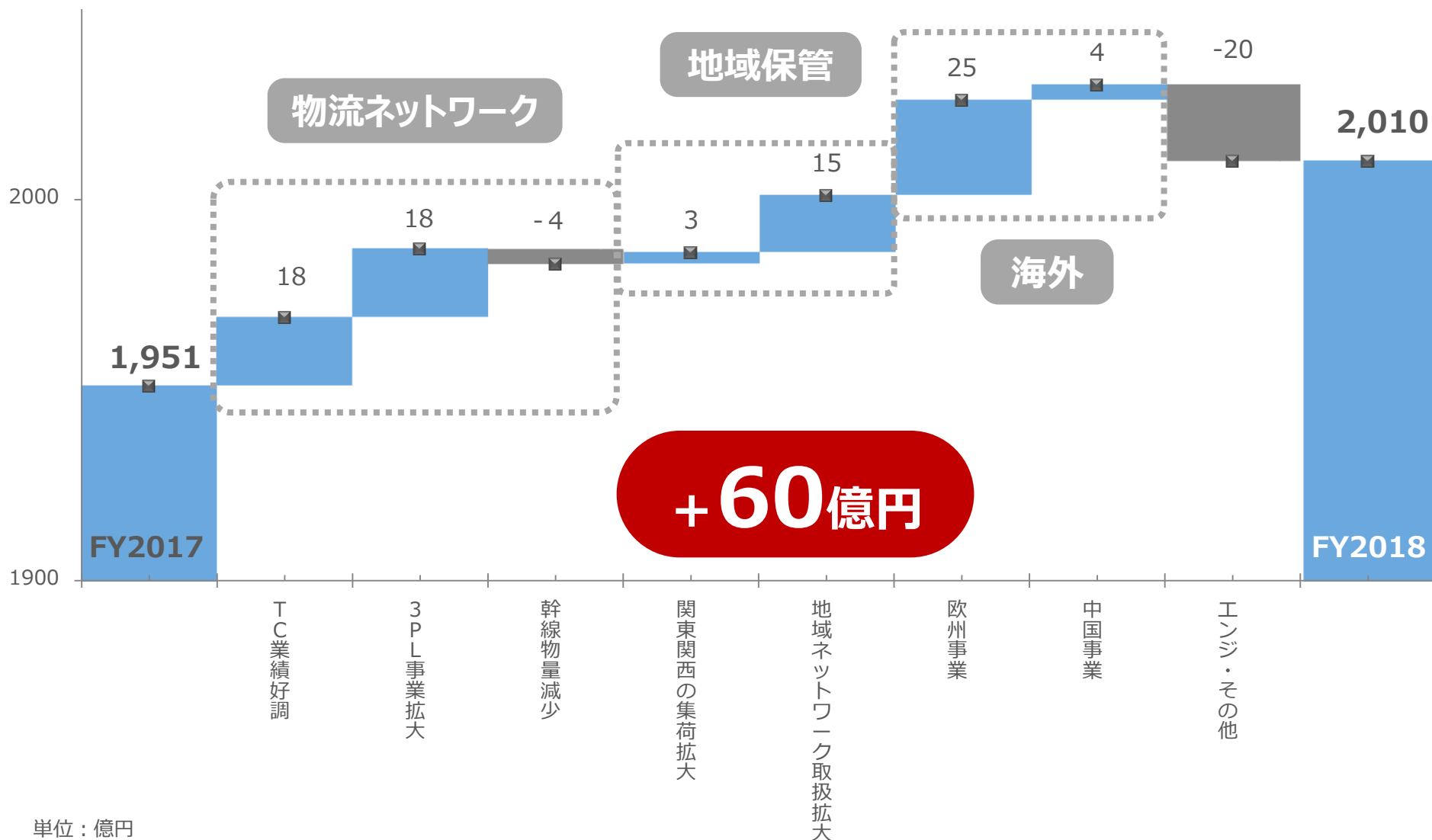
- その他・共通
- 海外
- 地域保管
- 物流ネットワーク

前年比**1%増**



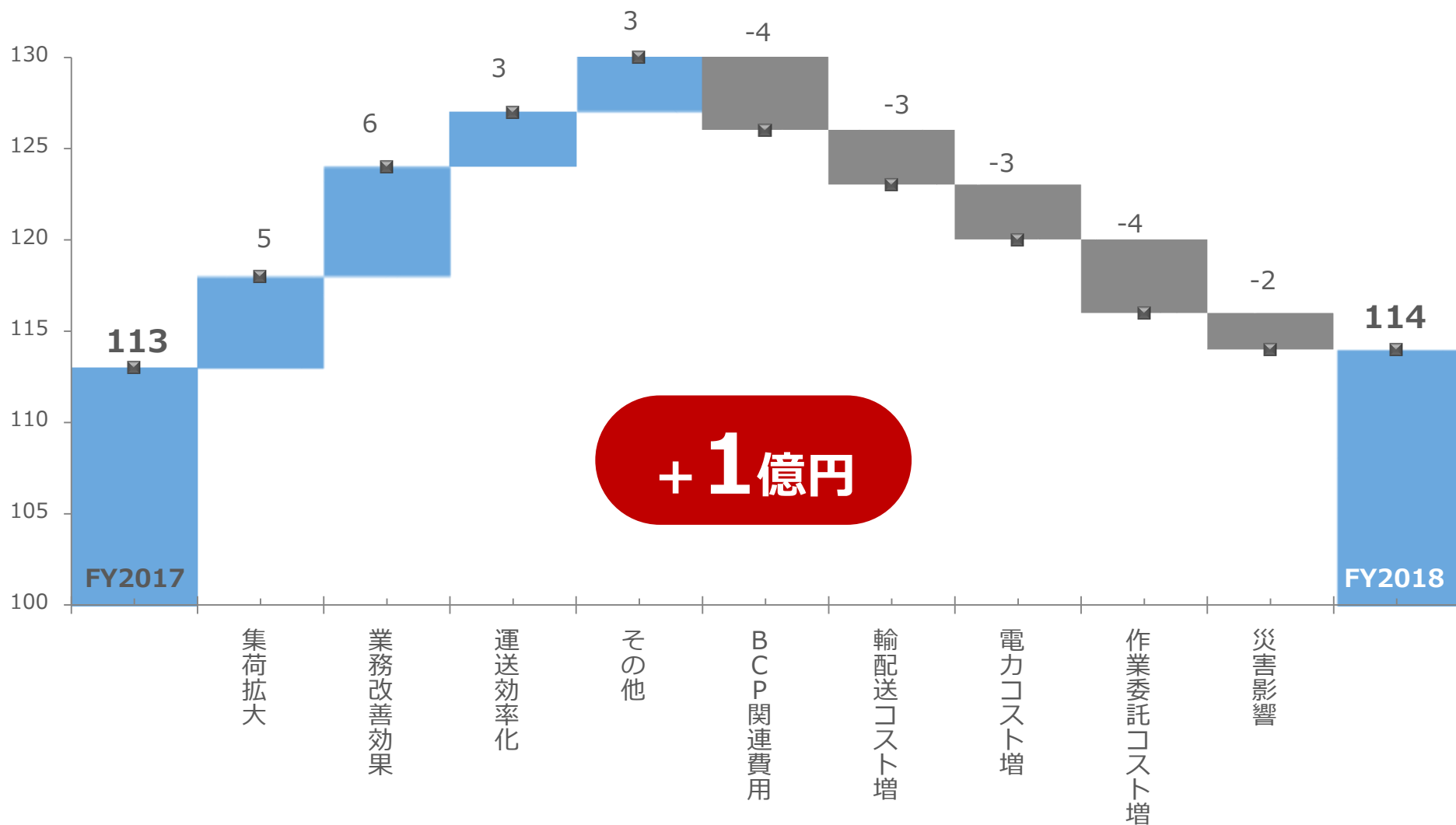
2. 2019年3月期 決算概要

[連結：売上高の増減要因]



2. 2019年3月期 決算概要

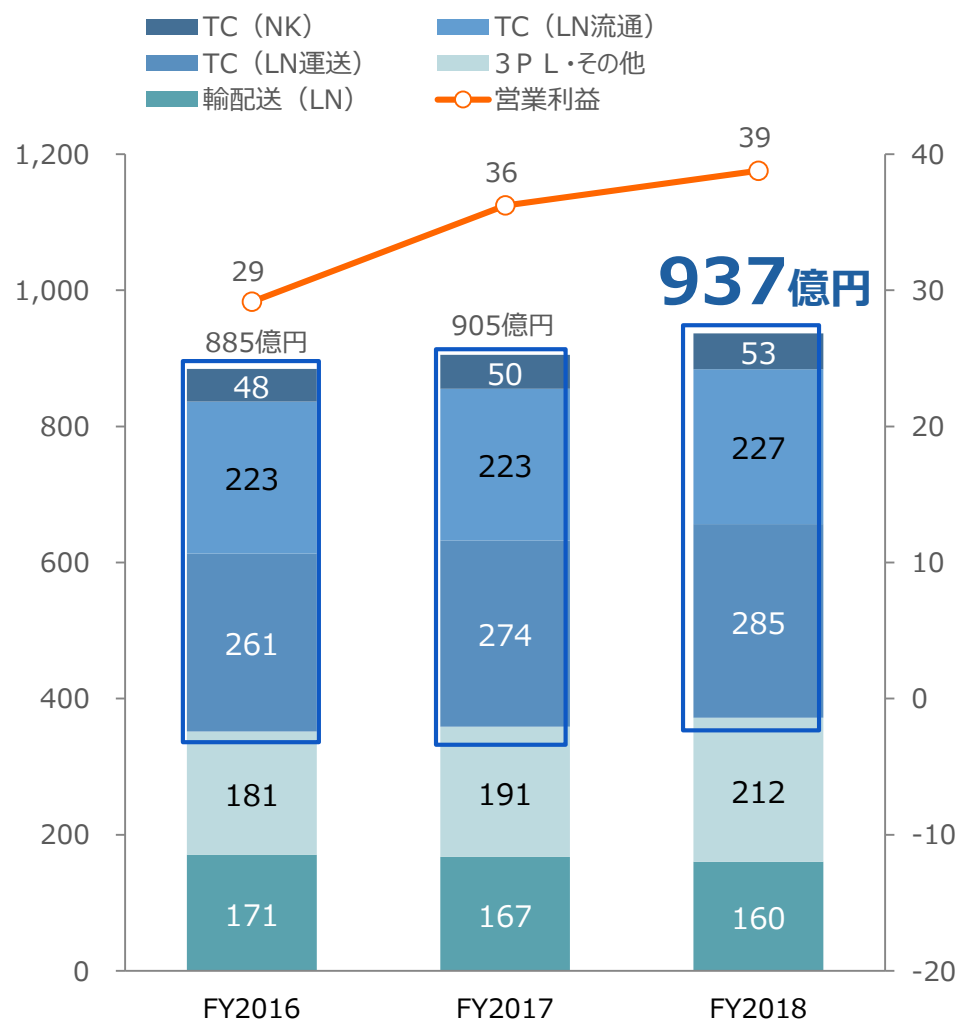
[連結：営業利益の増減要因]



2. 2019年3月期 決算概要

[物流ネットワーク事業]

売上高・営業利益推移



単位：億円

トピックス

■ TC事業

- ・ 主要顧客の取扱物量増加
- ・ 課題事業所の業績回復

■ 3PL事業

- ・ 関西CVS業務の拡大
- ・ コンサルティング業務の伸長

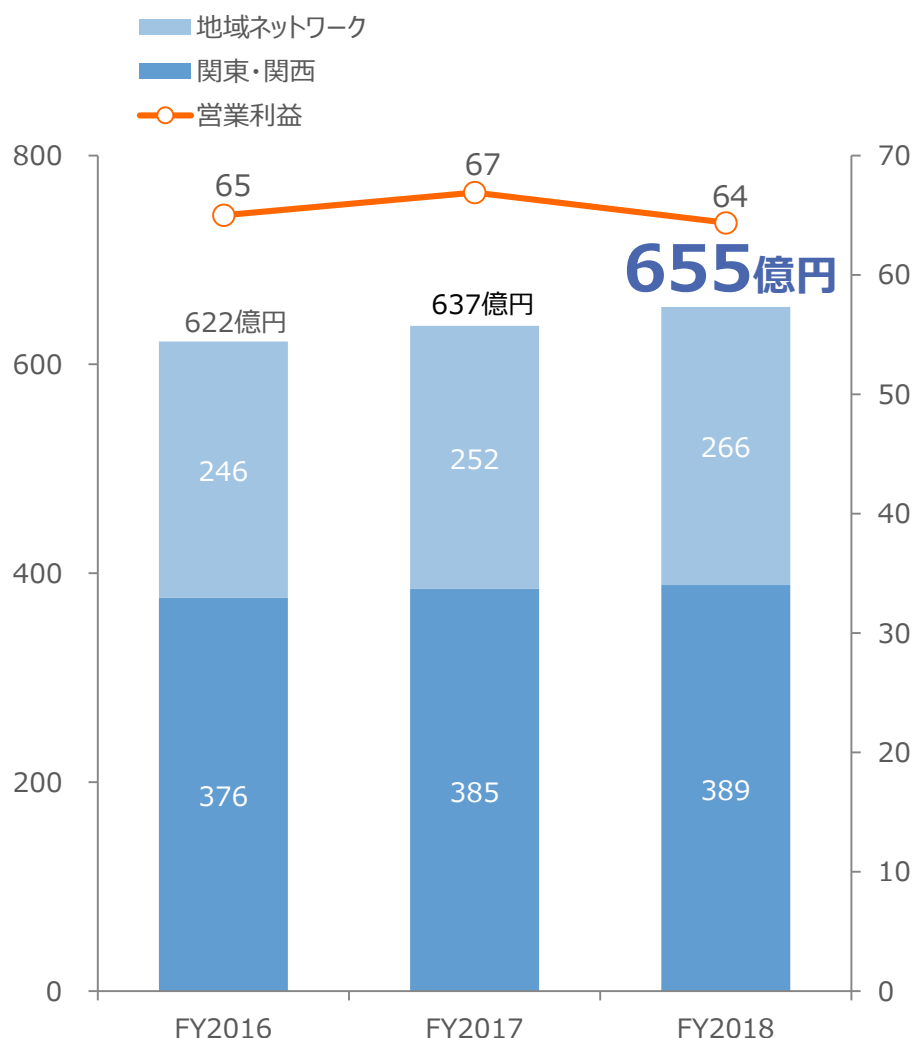
■ 輸配送事業

- ・ コスト対応による収益性向上

2. 2019年3月期 決算概要

[地域保管事業]

売上高・営業利益推移



トピックス

■ 関東

- ・ 平和島DCの順調な稼働
- ・ 労働力不足によるコストアップ影響

■ 関西

- ・ 台風被害からの復旧対応
- ・ 港湾地域における高在庫維持

■ 地域ネットワーク

- ・ 北海道や南九州の地場貨物拡大
- ・ 飲料原料の取扱い物量拡大

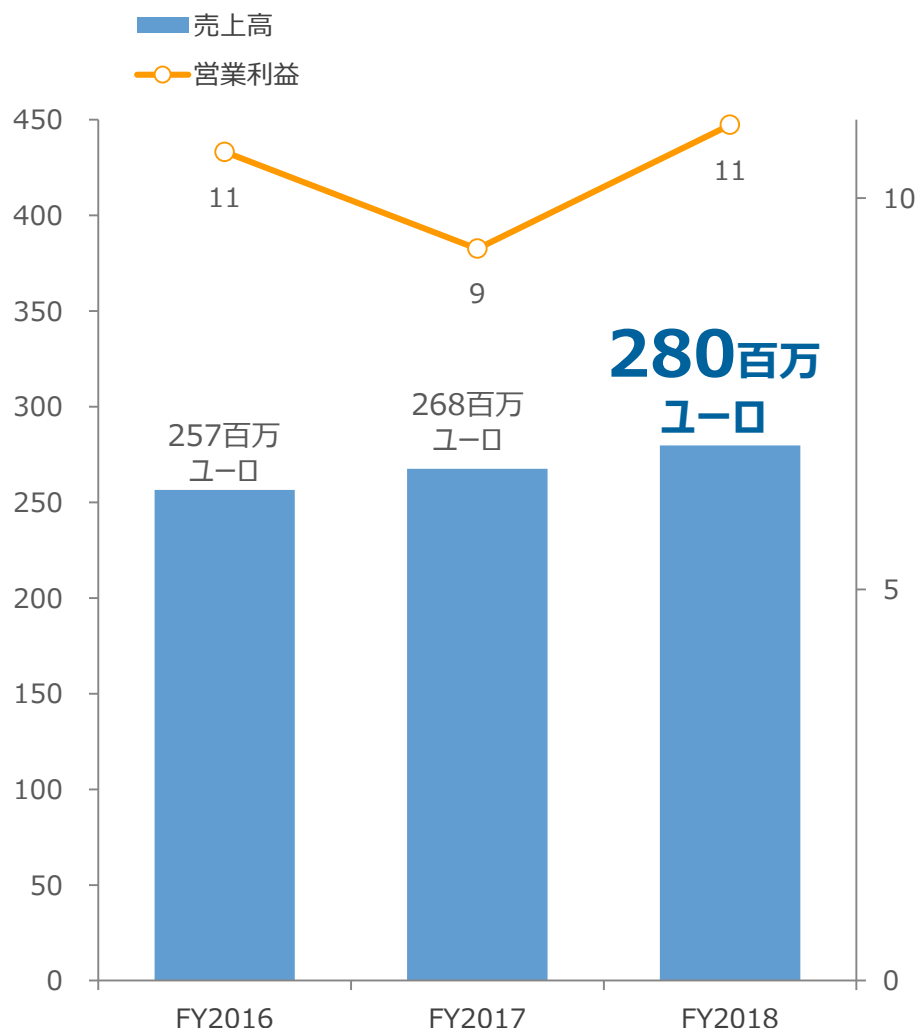
■ 共通

- ・ 再保管コストの上昇

2. 2019年3月期 決算概要

[欧州事業]

売上高・営業利益推移



トピックス

■ 保管

- ・ ブラジル産鶏肉の物量減少継続
- ・ 新規カテゴリーの貨物拡大

■ 通関

- ・ 高収益顧客の取扱い減少
- ・ コンテナドレージコストの上昇

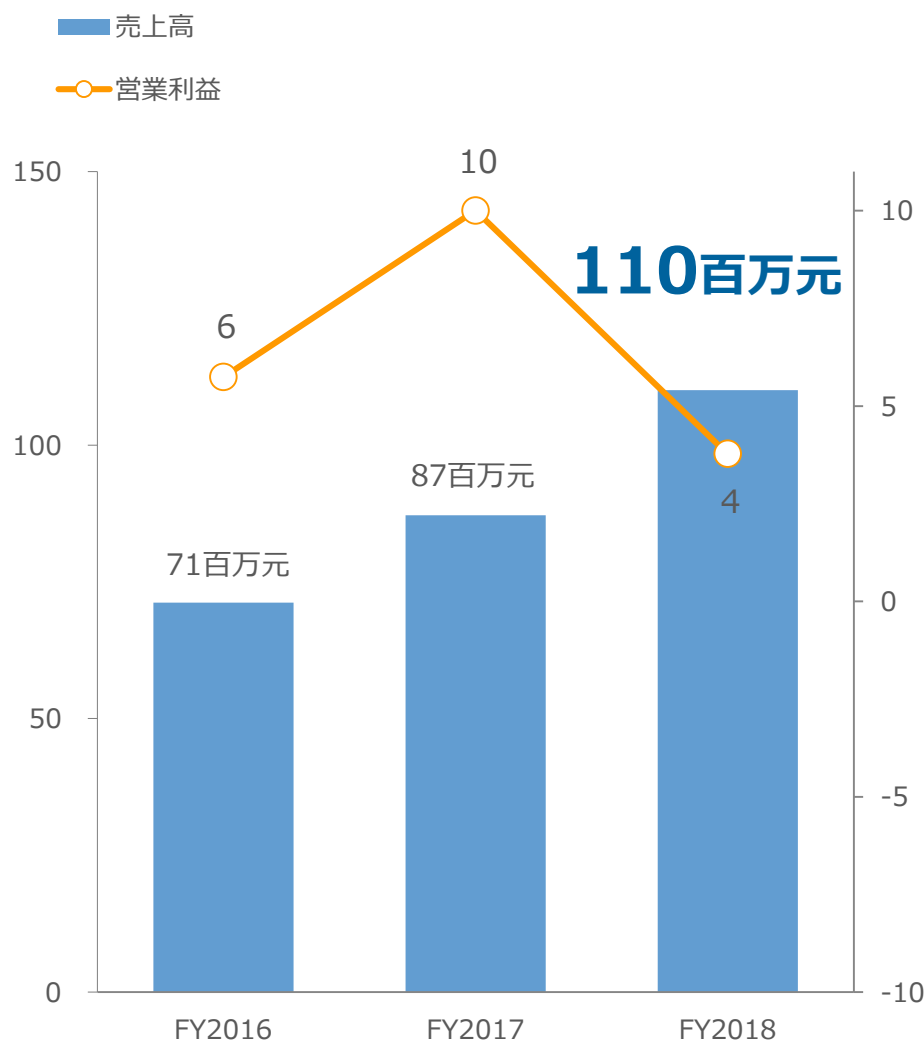
■ 運送

- ・ フランスの政情不安による収益影響
- ・ クロスボーダー輸送の取扱い物量拡大

2. 2019年3月期 決算概要

[中国事業]

売上高・営業利益推移



トピックス

■ 流通事業

- ・ 大手CVS出店加速への対応
- ・ 新センターの稼働一時コストの発生
- ・ 拠点分割による設備稼働率の低下

■ 保管事業

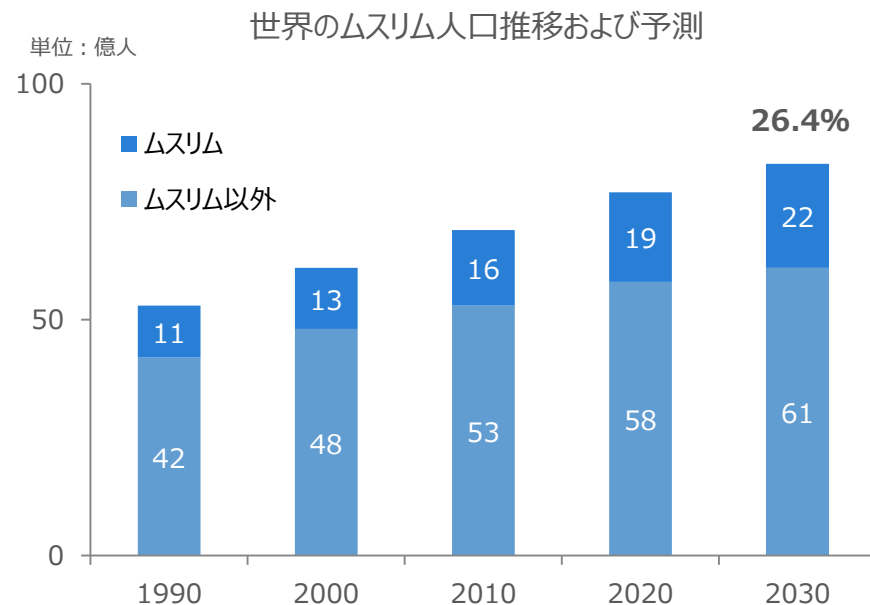
- ・ 新規カテゴリーの取扱い好調
- ・ 新規顧客の開拓

■ 配送事業

- ・ 主要顧客の物量増
- ・ 庸車料上昇によるコスト増

【トピックス】 マレーシア事業開始

NLCCN：2018年6月よりニチレイロジグループによる運営を開始



出典：JETRO

[今後の展開]

NLCCNの強み

- ・ハラル専門最大の物流事業者
- ・クアラルンプールへの好アクセス
- ・政府系ファンドによる出資

NL出資後の強化策

- ・倉庫内サービスの品質改善
- ・財務の健全化
- ・社名変更によるブランディング (CCN→NLCCN)

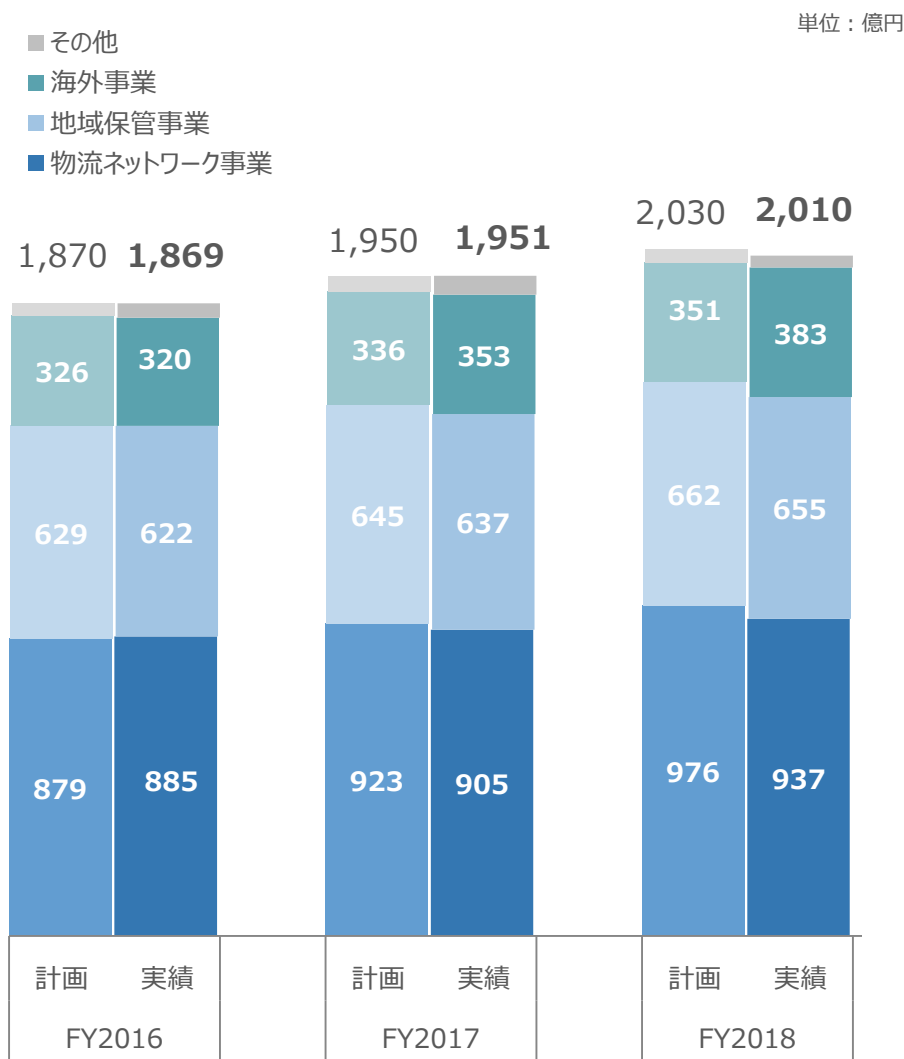
機能特性とハラルノウハウを
活用した基盤確立と
事業拡大

1. 企業概要
2. 2019年3月期 決算概要
- 3. 前中期経営計画(2016-2018)**
4. 新中期経営計画(2019-2021)
5. 参考資料

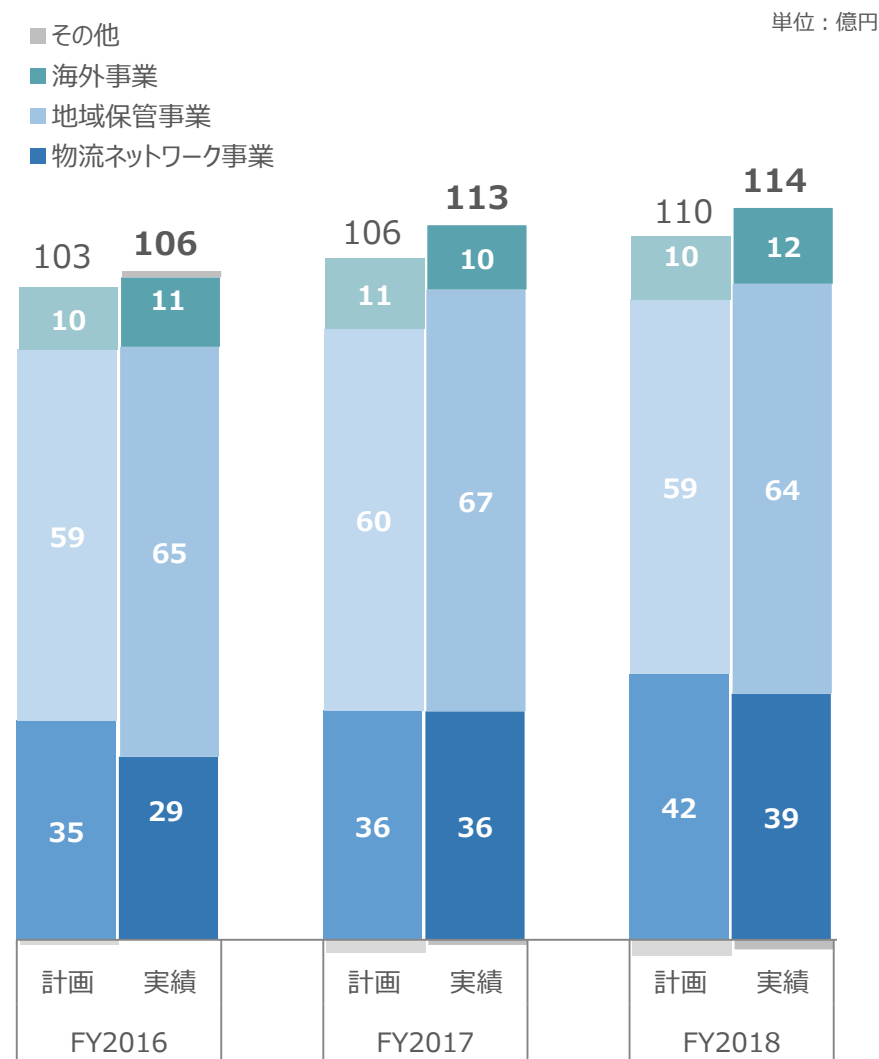
3. 前中期経営計画(2016-2018)

[業績結果]

売上高



営業利益



3. 前中期経営計画(2016-2018)

[成果]

企業体質の強化

- ・業務革新の推進
タブレット活用による庫内デジタル化や事務作業効率化
- ・女性活躍推進
ロジ女フォーラムの継続開催による風土醸成
- ・基幹システムのDR化
災害時の早期復旧体制整備による事業継続性の強化

新たな成長を見据えた取り組み

- ・コンビニエンスストア業務の開始
大手チェーンの関西地区保管配送拠点の受託
- ・マレーシアへの進出
ASEAN 2ヶ国目の進出による事業拡大
- ・沖縄進出決定
真の全国物流ネットワークの構築

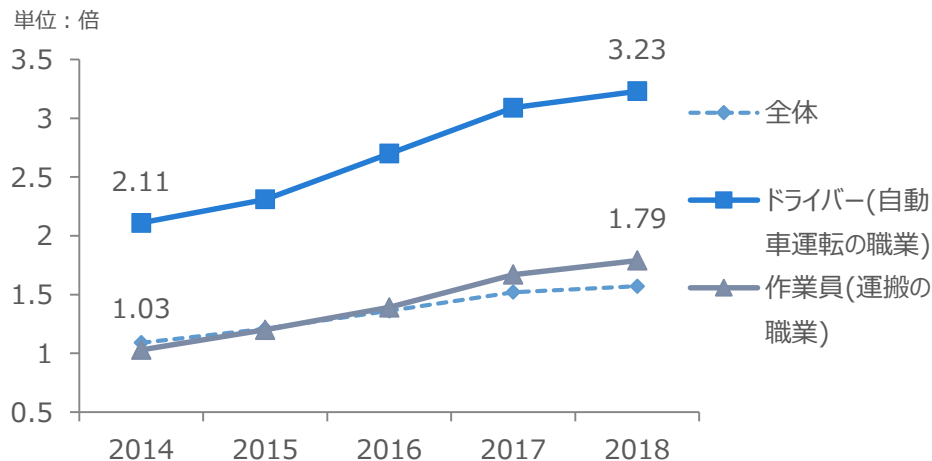
強みを活かした既存事業拡大

- ・平和島物流センター稼働
東京港湾地区好立地への庫腹増設
- ・地域ネットワーク化による収益向上
保管と運送の組み合わせによる地域ニーズへの対応強化
- ・海外事業の成長
(欧州)取扱いカテゴリーの多様化と業態変更後の安定稼働
(中国)顧客店舗拡大に応じた拠点設置

3. 前中期経営計画(2016-2018)

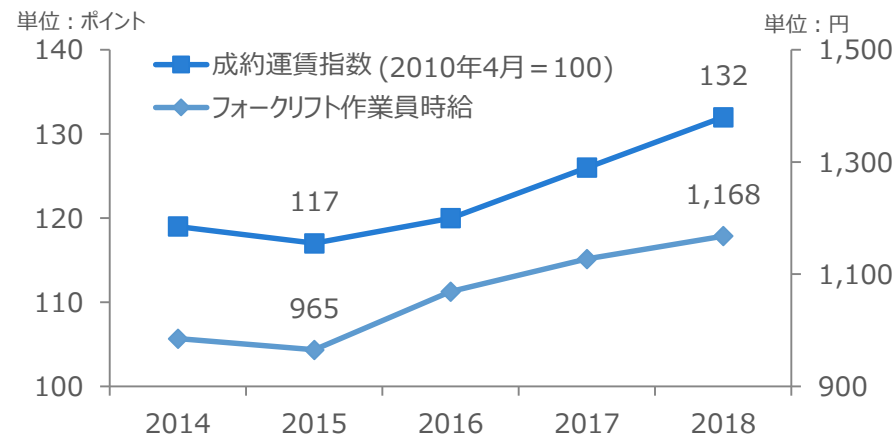
[外部環境]

有効求人倍率



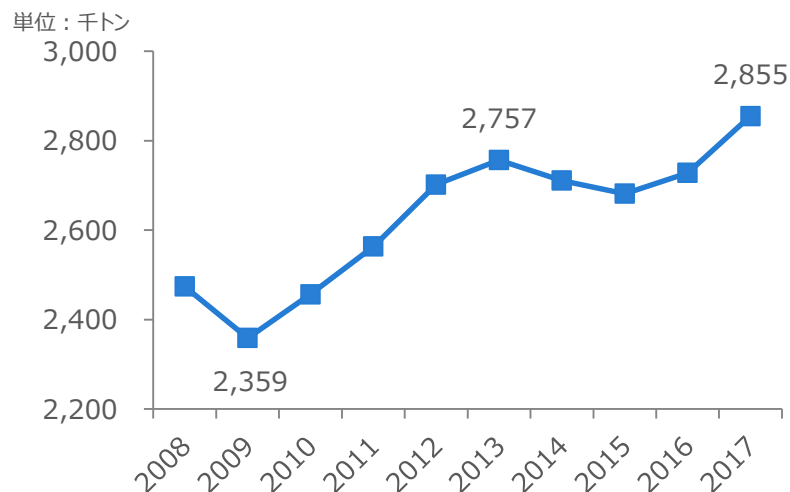
出典：厚生労働省「一般職業紹介状況」(含パート)

車両・作業コスト上昇



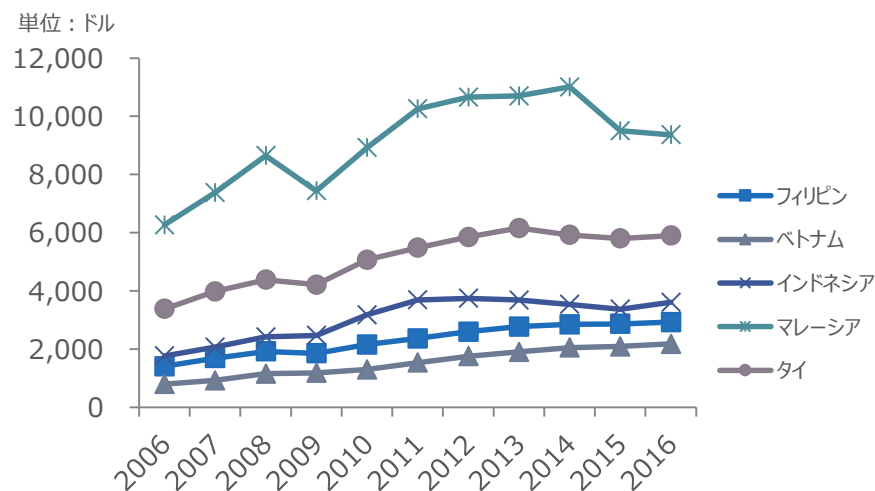
出典：(公社)全日本トラック協会・ジョブズリサーチセンターホームページ

国内冷凍食品消費量



出典：(一社)日本冷凍食品協会ホームページ

ASEAN 1人あたりGDP



出典：経済産業省「通算白書2017」

3. 前中期経営計画(2016-2018)

[新中計に向けて]

中計の達成

食品低温物流事業者No. 1 規模の
売上高・営業利益の達成

外部環境の変化

労働力不足への対応
コスト上昇への対応
労働規制の強化

国内市場

高齢化・共働きの増加による
冷凍食品需要の伸長

海外市場

新興国の経済発展

新たな食品低温物流事業者No. 1 の姿へ

- ・次なる成長ドライバーの構築に向けた取り組み
- ・先進的な物流オペレーションへの転換
- ・さらなる事業規模の拡大による成長

1. 企業概要
2. 2019年3月期 決算概要
3. 前中期経営計画(2016-2018)
- 4. 新中期経営計画(2019-2021)**
5. 参考資料

4. 新中期経営計画(2019-2021)

[ニチレイグループ ミッション]

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

[事業ビジョン]

国内No. 1 の高度な低温物流を
世界のスタンダードへ。

社会や顧客の課題に対し、革新的なノウハウを追求し、
最適なソリューションを提供。

これまで培ってきたお客様の信頼に応えつづけ、
低温物流のパートナーとして、かけがえのない存在になる。

[基本姿勢]

グループ唯一のサービス業として、当社で働くすべての人の満足度を高め、
あらゆるシーンでお客様の利用体験価値を上げていくことを追求し、
生活者に貢献する。

[ブランドスローガン]

選ばれつつける仕事。

[ブランドステートメント]

ニチレイロジグループは
確かな専門知識と総合力に加え、
社員ひとりひとりの新しい発想と提案力をもって
これからの低温物流をリードし、
日本の、そして世界の「食」を支え続けます。



4. 新中期経営計画(2019-2021)

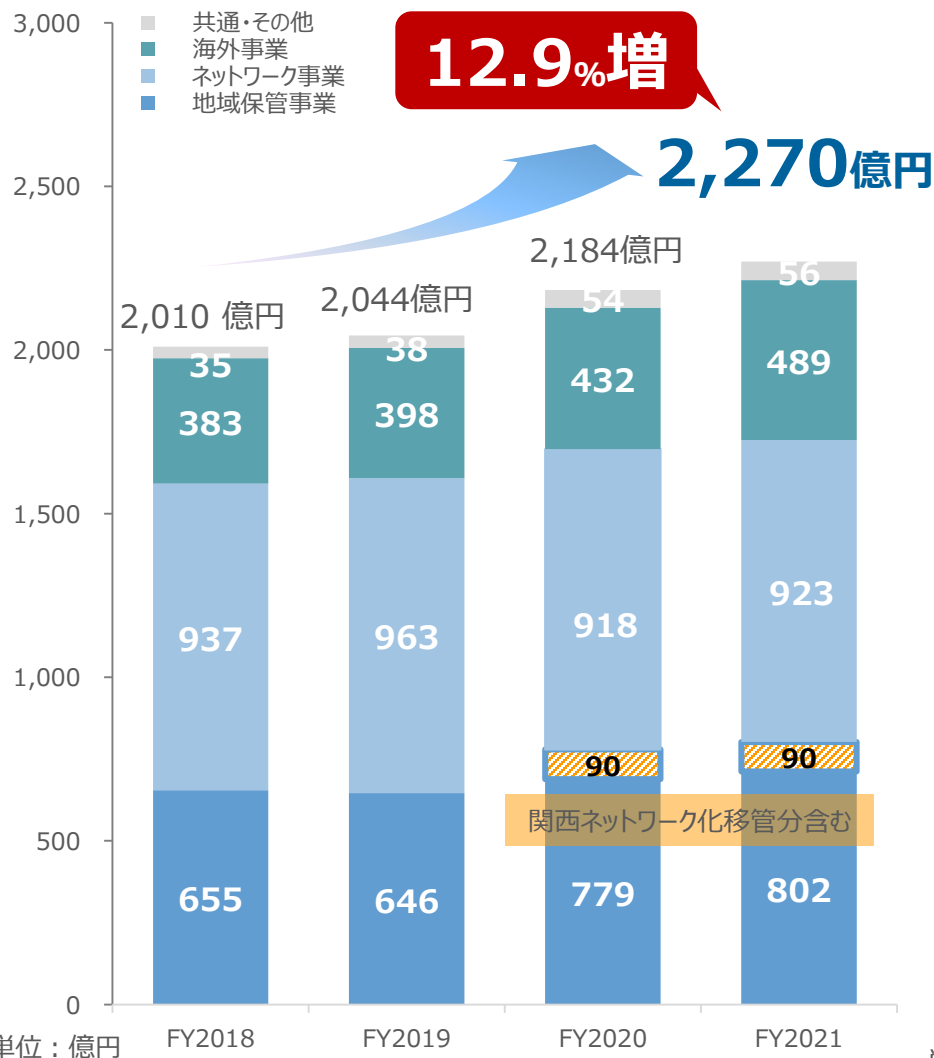
[基本方針]

基盤強化	持続的な成長に向けた企業体質の強化 ・業務革新推進による事業基盤の強化 ・事業成長に資する戦略的人事施策の遂行
成長戦略	事業成長を実現する革新的な物流ソリューションの展開 ・新たな 3 PLモデルの確立 ・ASEANにおけるソリューションビジネスの拡大
国内事業	国内既存事業の安定拡大による収益力の最大化 ・大都市圏の新設拠点活用によるエリア収益力最大化 ・カテゴリー化によるエリア全体の高効率運用の実現 ・関西ネットワーク化による輸配送機能強化
海外事業	海外事業の積極拡大 ・欧州港湾地区の事業基盤強化と内陸地区の運送拠点の整備 ・中国事業の拡大

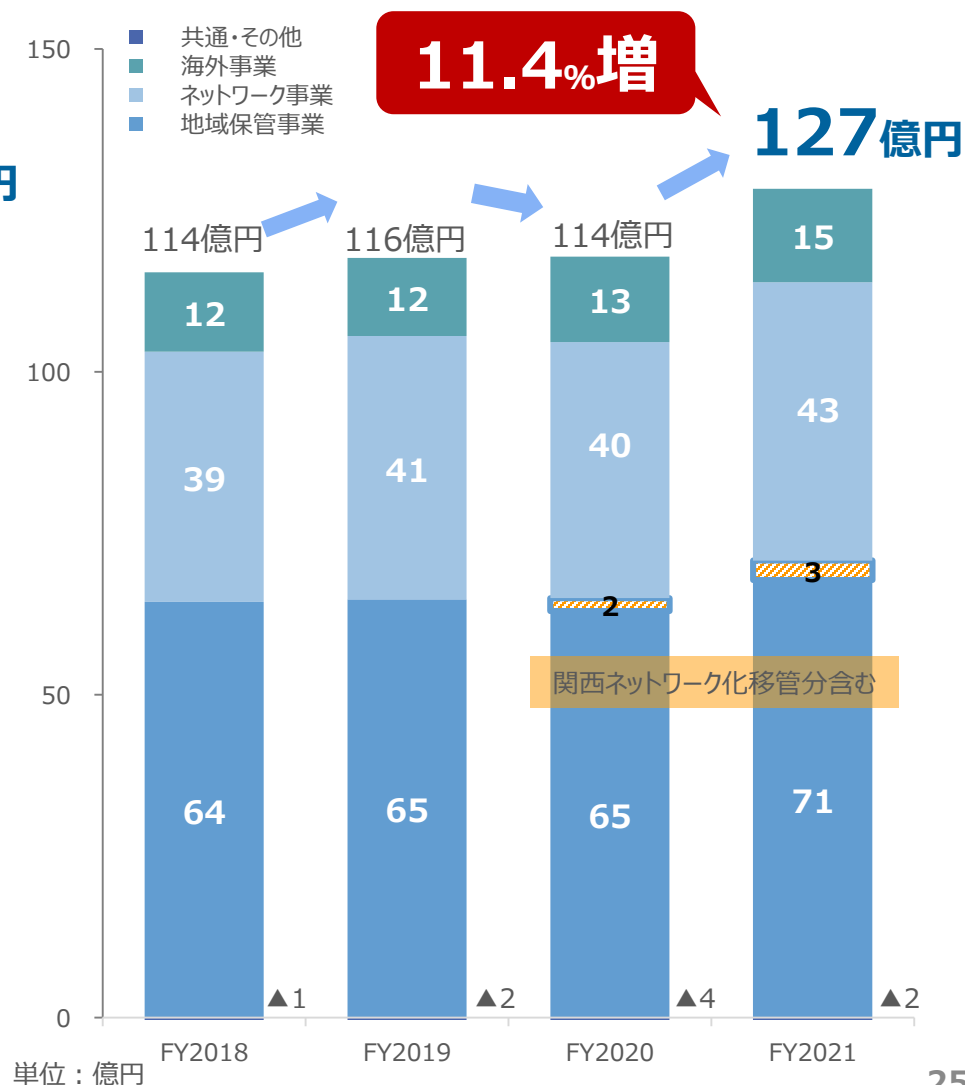
4. 新中期経営計画（2019-2021）

[経営目標]

売上高



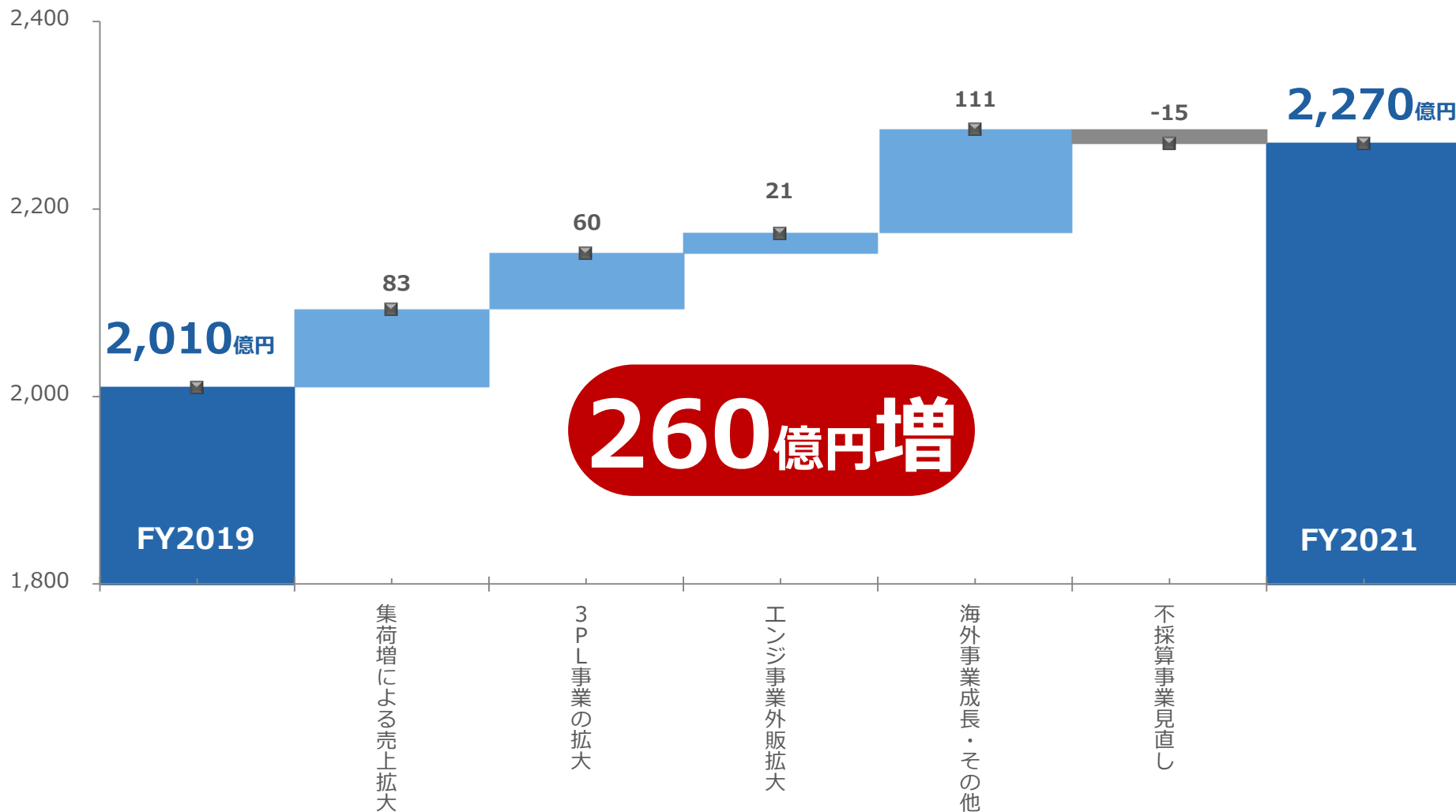
営業利益



4. 新中期経営計画(2019-2021)

[売上高の増減要因]

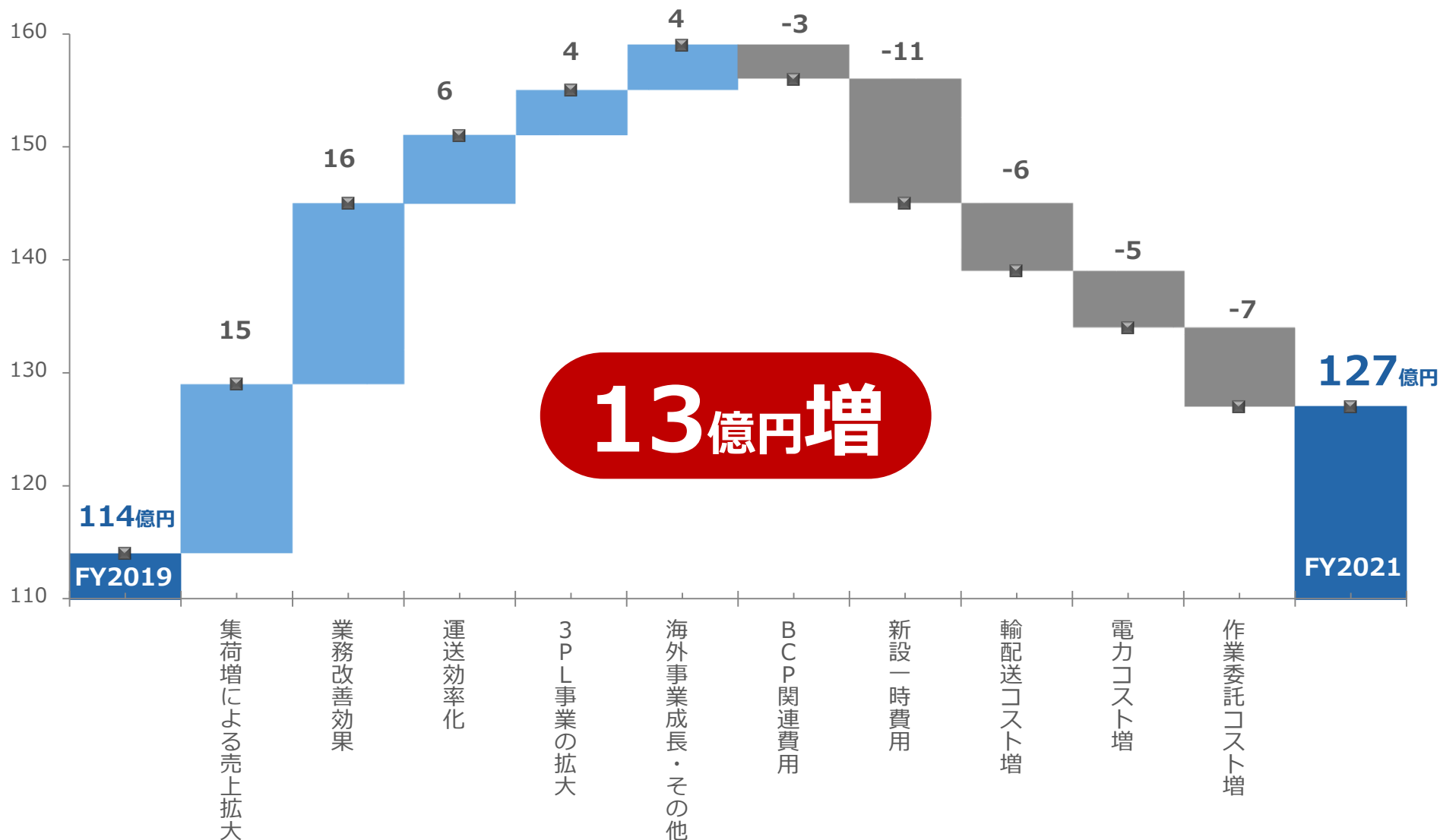
単位：億円



4. 新中期経営計画(2019-2021)

[営業利益の増減要因]

単位：億円

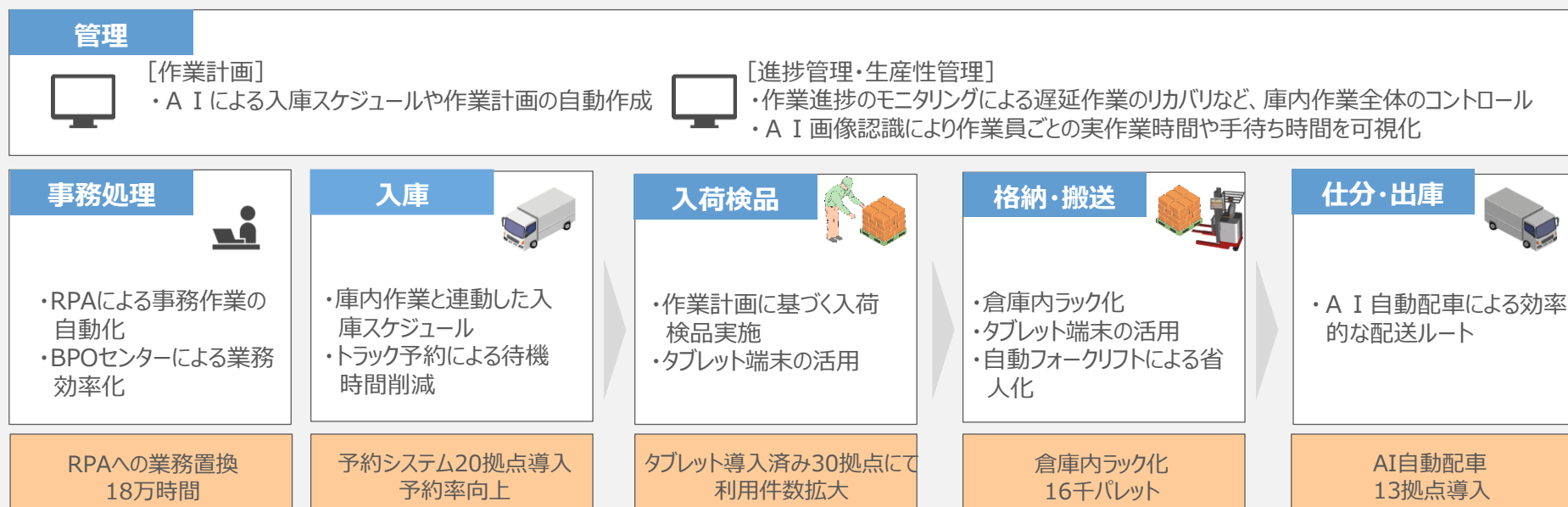


4. 新中期経営計画(2019-2021)

[業務革新のさらなる推進]

新中期経営計画		次期中期経営計画
Stage 1	Stage 2	Stage 3
庫内情報のデジタル化 ✓ 画像認識やIoT等を活用し庫内のあらゆる情報がデジタル化されている。 ✓ 集積データが整理された状態で可視化されている。	データを元にした意思決定 ✓ 可視化されたデータをもとに、人の判断による効率的な作業が行える。 ✓ 庫内進捗のモニタリングにより、作業遅れのリカバリなどの作業最適化が進む。	意思決定の自動化 ✓ A I が自律的に作業をマネジメント。 ✓ 経験や勘といった熟練の技を必要としない「誰でもできる化」の実現。

新中計で目指す庫内作業イメージと19年度の定量目標



4. 新中期経営計画(2019-2021)

[多様な人材の活躍に向けた人事施策]

成長実感につながる人事制度

- ✓ 多様なキャリアパスを想定した人事制度の導入
- ✓ ワークライフバランスを実現する各種制度の充実
- ✓ 研修体系の再構築

戦略的な人員配置

- ✓ 育成に向けた人事ローテーションの実施
- ✓ 人材育成や専門性強化につながる中長期での計画的人員配置

[ダイバーシティ推進]

前中期経営計画

新中期経営計画

女性活躍の意識醸成・風土改革

- ・ロジ女フォーラムの継続開催
- ・地域会社での女性活躍の取り組み拡大

女性活躍推進のスタート

- ・基本方針の制定

女性活躍推進から
ダイバーシティ推進へ

4. 新中期経営計画(2019-2021)

[新たな 3 PLモデルの確立]

外部環境



新 3 PLソリューション

市場拡大

- ・冷凍食品ニーズの高まり

顧客課題

- ・多品種少量化による業務の複雑化・煩雑化
- ・アセットや車両の不足
- ・物流データ可視化の困難性

メーカー個社別対応
では限界

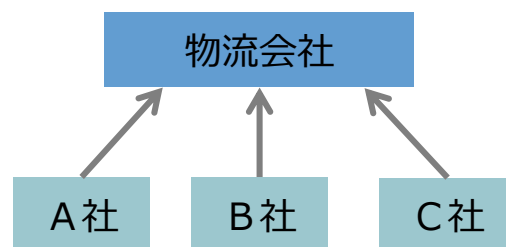
社会的要請

- ・トラック待機時間の削減
- ・CO2排出量削減
- ・労働力不足への対応

サプライチェーン全体への
働きかけが必要

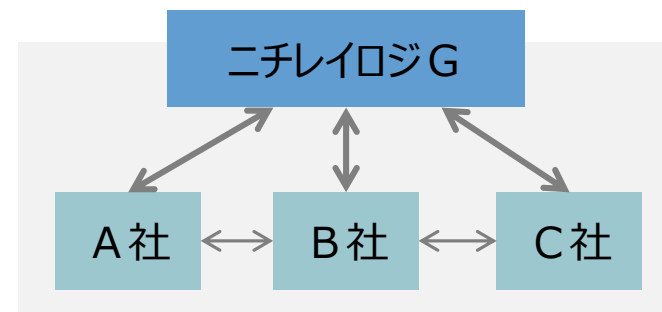
オープンで持続可能なメーカー物流インフラの構築

[従来の混載配送モデル]



1 対 N の業務委託形式

[新たな共同配送モデル]



参加企業とのプロジェクト形式

[新モデルで実現すること]

共同配送
拡大

物流実行力

+

情報の可視化
オープン化

更なる効率化
全体最適

問題解決力

4. 新中期経営計画(2019-2021)

[ASEANにおけるソリューションビジネスの拡大]

ASEAN主要5か国への進出状況



既存事業の拡大

- タイ
 - ・提供機能の強化による顧客拡大
 - ・配送ネットワーク構築
- マレーシア
 - ・新規顧客の獲得
 - ・配送ネットワーク構築
 - ・ハラル物流の拡大

新規進出計画の立案

- ・インフラ整備や経済成長度合いなど低温物流の成長土壌があるエリア
- ・有力な合併パートナー

国内で培ったノウハウをもとに
地域ニーズに沿った
ソリューションを展開

4. 新中期経営計画(2019-2021)

[那覇新港物流センター：2019年5月より営業開始]

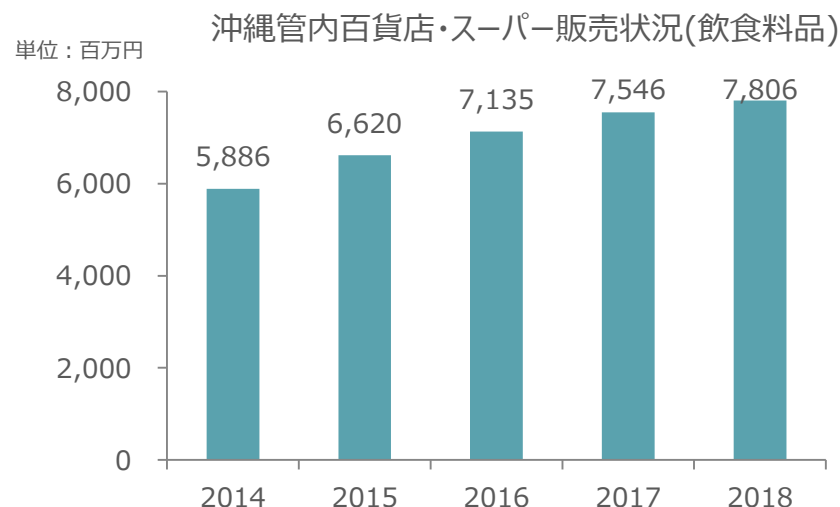
地理的優位性

東アジアの中心で主要都市へ4時間以内のアクセス



沖縄県内市場の拡大

人口増加とインバウンド拡大に伴い消費が伸長



出典：内閣府沖縄総合事務局管内概況

沖縄への在庫需要の取り込み
沖縄をハブ拠点とした輸出入ルート構築

4. 新中期経営計画(2019-2021)

[大都市圏の新設拠点活用によるエリア収益力最大化]

名古屋みなと物流センター



稼働日

2020年4月（予定）

冷蔵能力

30,635t

拠点
コンセプト

- ・庫腹増強による名古屋地区のカテゴリー化推進
- ・業革モデルセンターとしての先端技術活用
- ・多様な人材が活躍できる環境整備

本牧物流センター



稼働日

2021年3月(予定)

冷蔵能力

28,500 t

拠点
コンセプト

- ・加工場等の付帯設備の充実
- ・自動庫導入による効率化促進
- ・運送機能のさらなる強化

4. 新中期経営計画(2019-2021)

[カテゴリー化によるエリア全体の高効率運用の実現・関西ネットワーク化]

- ・拠点特性を活かしたカテゴリーセンター化による収益力向上
- ・保管運送一体運営およびデジタル化による従来型ビジネスモデルからの脱却

<2020年4月～ 関西地区ネットワーク化後の再編イメージ>

保管機能

従来型冷蔵保管
貨物の取込

北港物流センター

新南港物流センター

咲洲物流センター

大阪埠頭物流センター-1棟

運送機能

冷食共配および
広域幹線・地場配送

関西物流センター

大阪埠頭物流センター-2棟

保管運送一体運営

保管機能と運送機能の連携により効率化を促進

北港物流センター

新南港物流センター

咲洲物流センター

大阪埠頭物流センター-1棟

関西物流センター

大阪埠頭物流センター-2棟

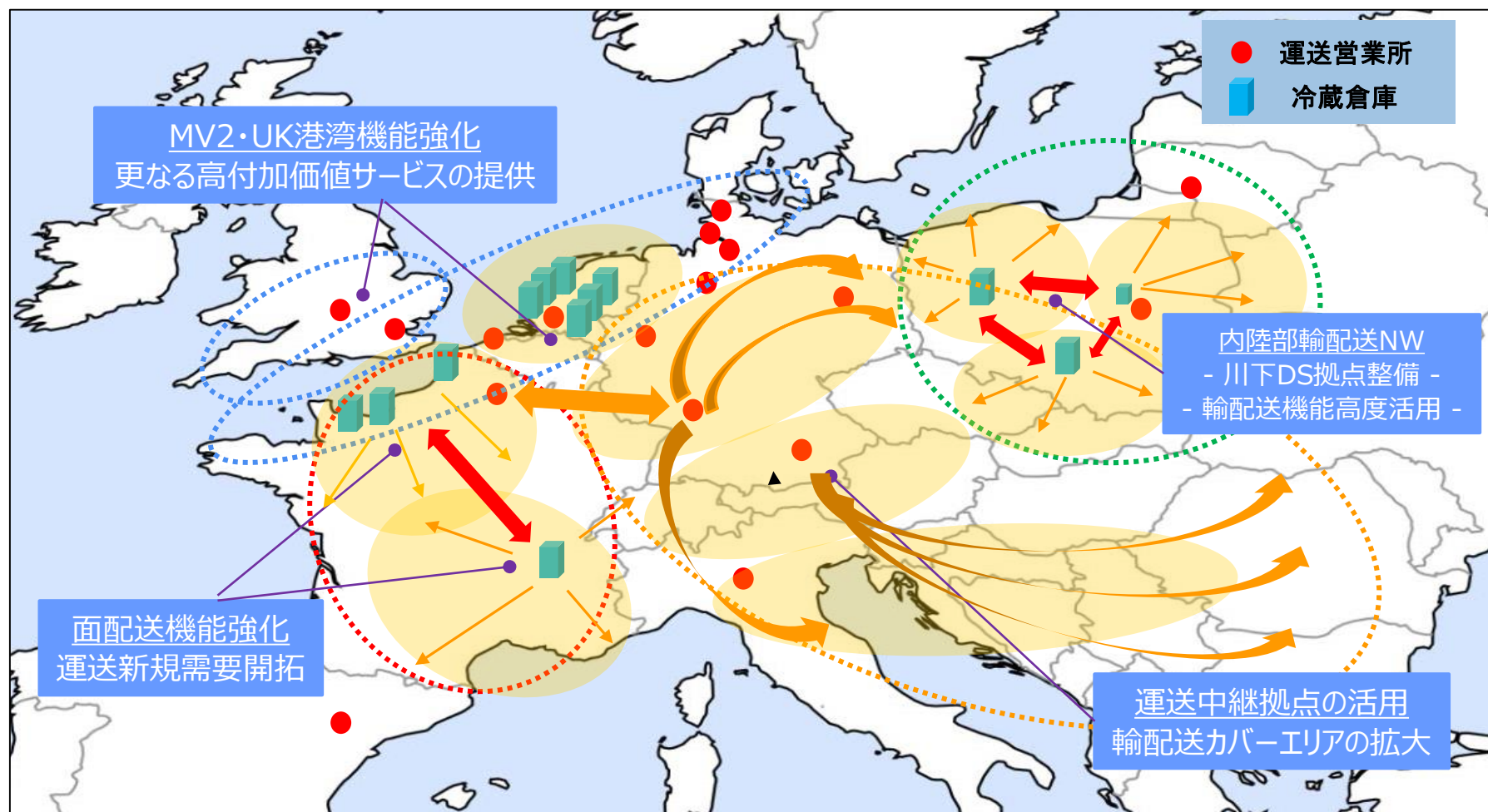
外部アセットとの連携による効率化効果の最大化

協力会社拠点

4. 新中期経営計画(2019-2021)

[欧州港湾地区の事業基盤強化と内陸地区の運送拠点の整備]

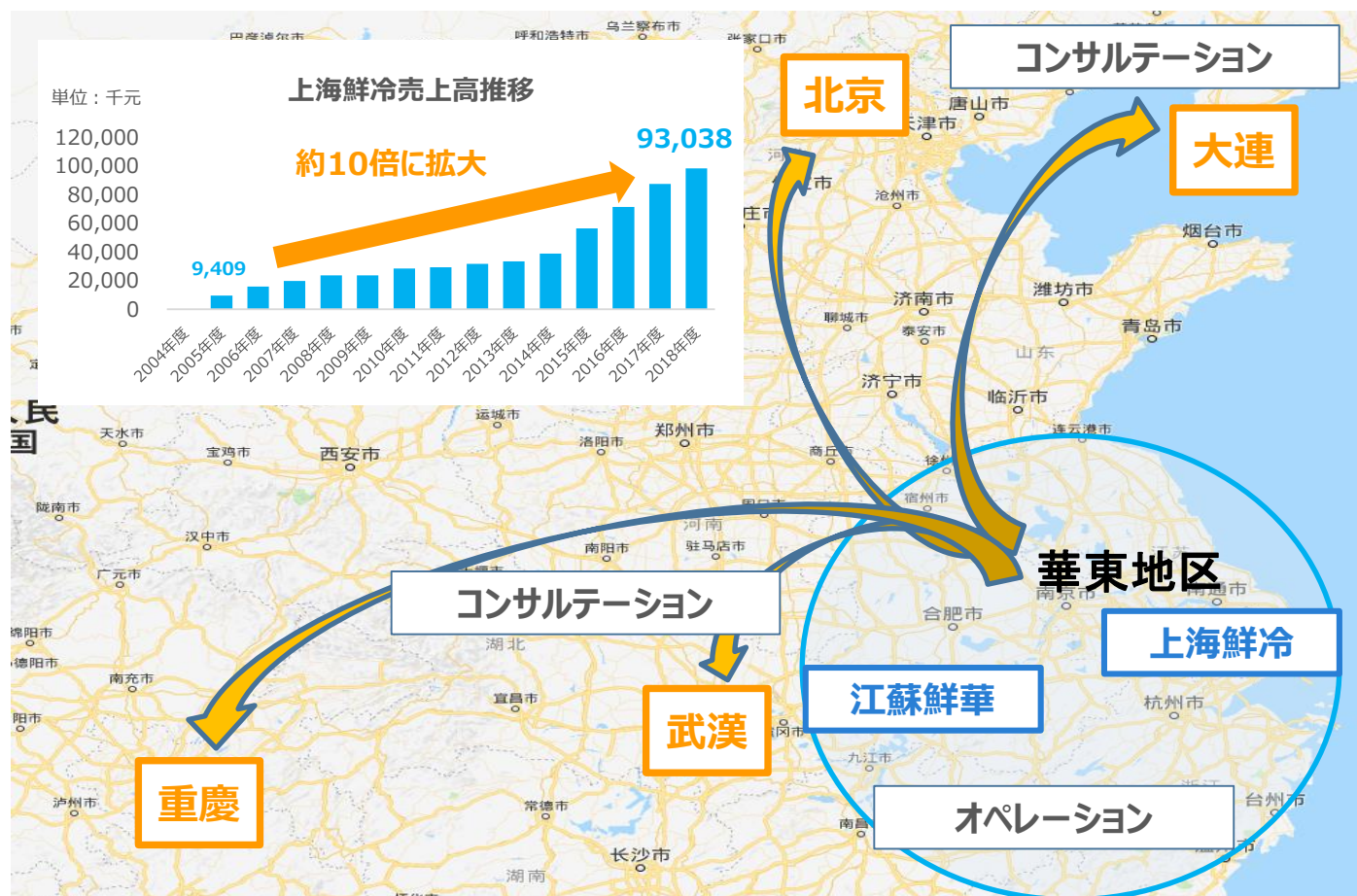
- ・港湾拠点の機能強化による港湾カテゴリーにおけるNO.1ポジションの確立
- ・運送機能強化と車両の高度活用によるクロスボーダー輸送と量販物流の拡大



4. 新中期経営計画(2019-2021)

[中国事業の拡大]

- ・上海鮮冷有限公司を中心に、上海・華東地区で規模を拡大
- ・顧客の増店計画に応じた機能強化と、新規顧客の取り込みに対応する設備増強



上海・華東地区

■ 華東地区における顧客業容拡大へ対応
・・・既存顧客との一層の関係強化

■ 設備活用による取扱物量の拡大
・・・新規顧客の獲得

事業拠点 (2019年現在)

- 1) 上海鮮冷
 - ◆ 本社 (低温・常温センター)
 - ◆ 浙江省常温センター
 - ◆ 浙江省低温センター
- 2) 江蘇鮮華
 - ◆ 低温・常温センター

1. 企業概要
2. 2019年3月期 決算概要
3. 前中期経営計画(2016-2018)
4. 新中期経営計画(2019-2021)
5. 参考資料

5. 参考資料

[損益計算書（連結）]

単位：億円、端数四捨五入、（ ）内利益率

	前期		当期		前期比
売上高		1,951		2,010	+3.1%
営業利益	(5.8%)	113	(5.7%)	114	+1.3%
経常利益	(5.7%)	110	(5.4%)	109	-1.0%
税引前利益	(5.4%)	106	(5.2%)	104	-2.2%
当期純利益	(3.6%)	71	(3.4%)	69	-3.2%

※利益率は1円単位で計算

5. 参考資料

[損益計算書（セグメント別）]

		前期	当期	前期比	増減率
売上高	物流ネットワーク	90,500	93,680	3,180	+3.5%
	地域保管	63,723	65,495	1,771	+2.8%
	海外	35,340	38,328	2,987	+8.5%
	その他・共通	5,529	3,545	▲ 1,984	-35.9%
	合計	195,093	201,049	5,955	+3.1%
営業利益	物流ネットワーク	3,623	3,878	255	+7.0%
	地域保管	6,689	6,436	▲ 252	-3.8%
	海外	1,015	1,229	213	+21.1%
	その他・共通	▲ 72	▲ 145	▲ 73	-
	合計	11,255	11,398	142	+1.3%

5. 参考資料

[財務諸表分析]

		前期末	当期末
総資産	百万円	156,239	165,252
負債	百万円	73,887	78,583
うち、有利子負債	百万円	42,851	43,895
うち、有利子負債（リース債務除く）	百万円	25,245	27,417
純資産	百万円	82,352	86,669
D/E比率	倍	0.5	0.5
D/E比率（リース債務除く）	倍	0.3	0.3
自己資本比率	%	52.6%	52.3%
売上高	百万円	195,093	201,049
当期純利益	百万円	7,118	6,890
自己資本利益率（ROE）	%	8.7%	7.9%
総資産利益率（ROA）	%	4.6%	4.2%
総資産回転率	倍	1.2	1.2

注1：D/E 比率の算出方法：有利子負債÷純資産（少数株主持分を除く）

5. 参考資料

[設備投資の状況]

〈設備投資等〉

(単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画	当期比
10,090	11,901	1,810	16,363	+4462

〈減価償却費〉

(単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画	計画比
9,430	9,642	+211	10,186	+543

〈主な設備投資〉

(単位：百万円)

完了年月	会社名	所在地	設備の内容	設備投資 総額	当期計上額	完成後の 増加能力
	事業所名				(既計上額)	
2018年 6月	(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道 十勝物流センター	北海道 音更町	物流センターの 増設	656	505 (656)	冷蔵能力 3,190 t
2019年 5月	(株)ニチレイ・ロジスティクス九州 那覇新港物流センター	沖縄県 那覇市	物流センターの 運営	1,493 注2	1,212 (1,224)	冷蔵能力 12,485 t
2020年 4月 (予定)	(株)ニチレイ・ロジスティクス東海 名古屋みなと物流センター	愛知県 名古屋市	物流センターの 新設	10,161 注2	276 (1,616)	冷蔵能力 30,635 t

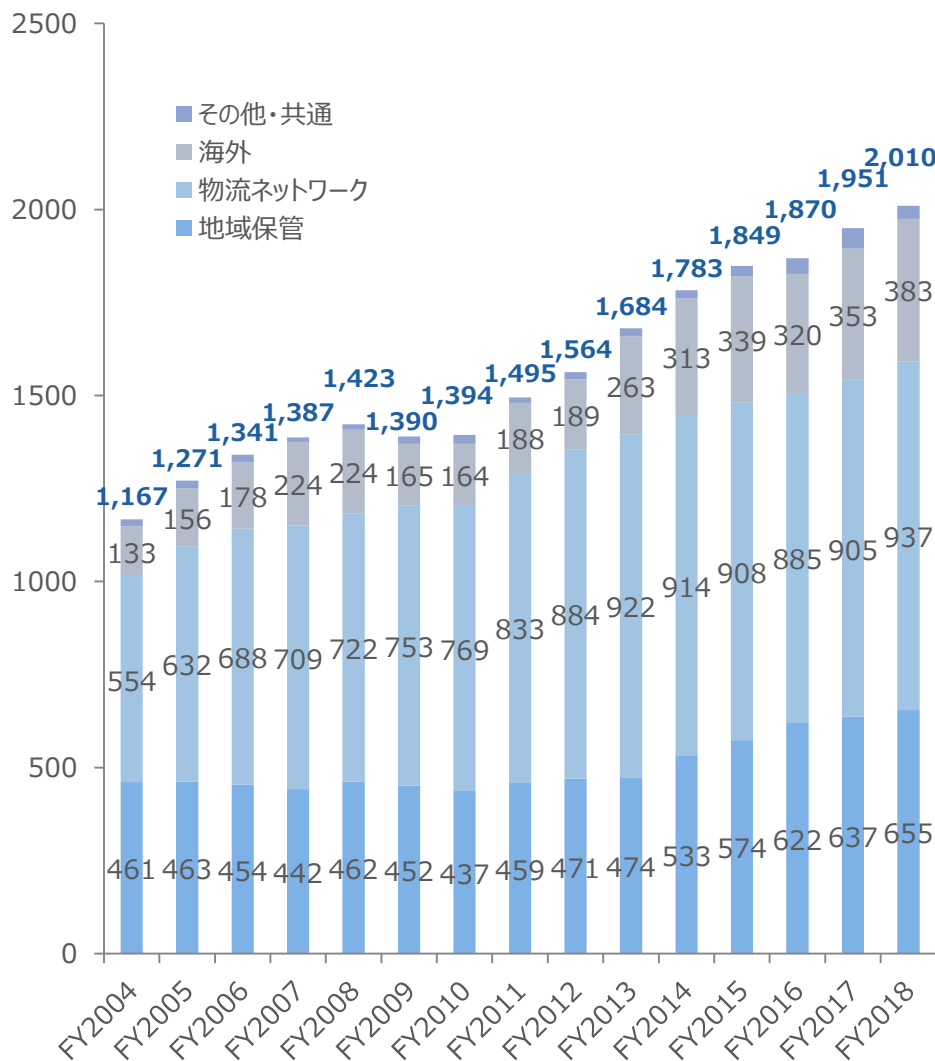
注1： 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

注2： 「設備投資総額」は、計画数値であります。

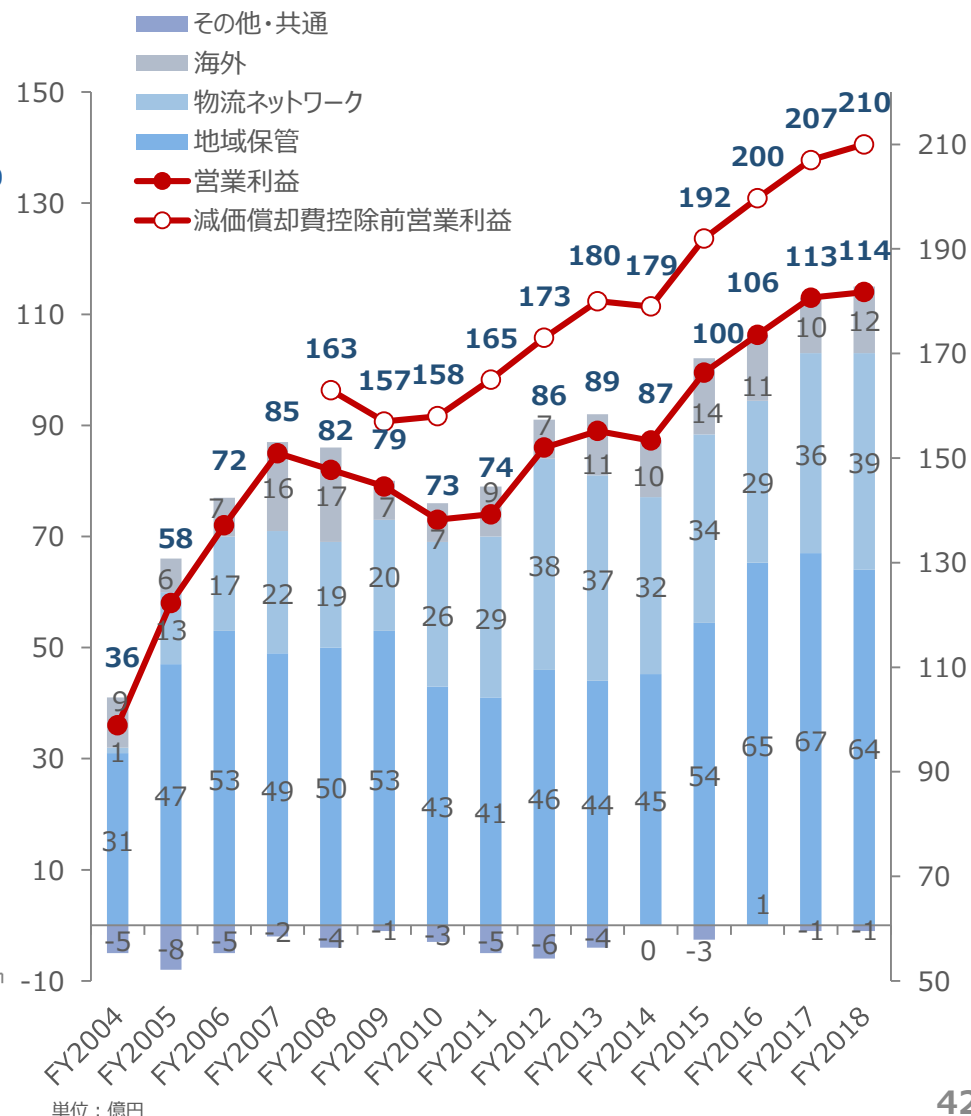
5. 参考資料

[分社後の売上高・営業利益推移]

売上高推移



営業利益推移



この説明資料に記載されている当グループの現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的
事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。

将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期
待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限
定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られた当
グループ経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、経済情勢および業界環境、為替レート変動、品質保証体制確立の実現
性、新サービスの実現性、成長戦略とローコスト構造の実現性、当グループと他社のアライア
ンス効果の実現性、偶発事象の結果、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な
影響など、リスクや不確実な要素を含んでおりますので、業績見通しのみに全面的に依拠して
判断されることは、お控えいただきますようお願いいたします。

【お問合せ先】

株式会社ニチレイロジグループ本社 経営企画部

Tel 03-3248-2175 Fax 03-3248-2130

株式会社ニチレイ グループコミュニケーション部 広報グループ

Tel 03-3248-2235 Fax 03-3248-2120

株式会社ニチレイロジグループ本社 ホームページ

<https://www.nichirei-logi.co.jp/index.html>

